

## 第6回関東地区自然保護交流会実施報告

会期 平成29年10月21日(土) ~22日(日)

場所 鴨沢山の家(山梨県北都留郡丹波村)

参加 27名(茨城2、栃木0、群馬1、埼玉10、千葉1、東京6、神奈川4、山梨0、長野3)

台風接近の荒天で、予定の雲取山への登山を含む奥多摩小屋の巡見は中止となったが、宿泊場所の鴨沢山の家にて、当初からの話題の奥多摩小屋廃止問題について、東京都山岳連盟自然保護委員会からそれら経緯の説明を主題に、参加者の間で意見交換を行った。

### (都岳連説明概要)

2017 フィバーと呼ばれ、雲取山の標高(2017.1m)に因んで、雲取山への登山者は増大して居るなか、中腹に建つ奥多摩山荘の「平成31年度3月31日を以て閉鎖」となる問題について、多くの関心が寄せられている。一帯が「五十人平」と呼ばれる緩斜面の稜線となって、奥多摩でも有数の好展望のテントサイトとして、多くの登山者が利用されている。また特に陽の短い時期には雲取避難小屋・雲取山荘に辿り着けない場合の緊急避難場所として、また快適ではないけれども屋外に「トイレ」が設置されているために通過する登山者も利用しているという。

こうした好立地条件を持つが故に、奥多摩小屋閉鎖に伴い管理者が決まらずテント場も「閉鎖」され、代替トイレが作られない場合にも、登山者の中には「無許可」で設営する者や休憩して野外排泄する者も出てくるのが予想され、し尿やゴミによる水源林の汚染や景観破壊等が危惧されている。

2014年頃、奥多摩小屋改装とトイレの改善という事で管理者の雲取山荘とインタビューを行ってきたところ、2015年頃から老朽化による小屋廃止の検討方向となり、所有者の奥多摩町では2017年3月に小屋廃止を検討しているとの情報、その後撤回され2018年3月の廃止検討となった。2017年5月ごろから、廃後の方針も示されないまま、小屋の一部取り壊しが行われた。2017年9月にはテントサイト、トイレの閉鎖については、環境省より十分な周知期間(1年ぐらい)が必要との指導を受け、関係機関と十分な協議を行い進めて行く予定。具体的になったら1年位かけて公式に案内予定となった。

### (交流会のまとめ)

登山に於けるし尿処理の問題は最も重要なところである、環境配慮型の山岳トイレは各地で設置されて、より快適な登山ができるようになった。しかし、山岳トイレ実現には、設備の設置や維持管理に莫大な費用と労力が伴うとの認識のもと、奥多摩小屋の存在の重要性を確認しあつた。今後、小屋の存続に向けた活動が進められる見込みから、「出来る範囲での協力をし合おう」と交流会を締めくくった。

